



「閑かさや 岩にしみいる 蟬の声」

松尾芭蕉

最近ではテレビの影響なのでしょうか、俳句が流行っています。今号では、夏の俳句として多くの方がご存知のとても有名な俳句を紹介しました。

部活と勉強 両立するか

前号で、「強くなれる選手」というテーマを取り上げ、きちんと生活をしている者が強くなれるのだと結論を出しました。今号では「部活と勉強 両立するか」について考えてみたいと思います。

これを読んでおられる保護者の皆さんの中には、うちの子は「部活ばかりで勉強がおろそかになっている」「部活を止めれば、もう少し学力がつくのではないか」と思っておられる方もいらっしゃるのではないのでしょうか。本当にそうなのでしょうか。

私はかつて、部活の顧問として、多くの子どもたちの指導をしてきました。その経験から部活を一生懸命に取り組む生徒の学力が低いかということとそのようなことはありませんでした。どちらかという、一生懸命に取り組む生徒ほど学力が高いという傾向があったように思います。

「部活をする時間があれば、その分勉強をして、学力をつけたらどうか」と思っておられる保護者の皆さんがおられるのではないのでしょうか。そのように勉強時間を増やすことで学力をつけた生徒もいます。でも、多くの生徒は時間があっても勉強より他のことに時間を使うという傾向があったように思います。

部活で一生懸命に活動する生徒は、時間をうまく見つけて勉強をしていたようです。ようするに「時間のマネジメント（管理）」がうまくできる生徒が多かったように思います。また、部活をする分、勉強時間が少なくなるからということで、短時間集中して勉強をしていたようです。そのことから、今号のテーマである「部活と勉強の両立」は可能であると思います。

部活は、体力をつけたりするだけでなく、時間がうまく使える力をつけてくれたり、集中力を養ってくれたりします。また、同じ興味・関心を持つ仲間ができる（このことは、学力以上に大切なことと考えます）ことなど、部活をすることによって多くのことが得られるのです。部活をすることは、中高生にとっては貴重な経験だと思います。

保護者の皆さんは、部活動をしている子どもさんには、ぜひ応援してやってください。間違っても「部活なんかやめて勉強をきなさい」などとは言わないで欲しいと思います。

今は、コロナ禍で活動時間が十分とれない、大切な試合が中止になるなど部活を一生懸命に取り組もうとしている子どもたちにとっては本当に辛い日々だろうと思います。自分が考えた練習に取り組んだり、また部活以外の活動（勉強をする、本を読む、趣味に力を入れる等）に取り組んだりしてみませんか。将来、きっとこの時間があったから今の自分があるのだと思える時がくるに違いありません。コロナ禍のピンチをチャンスにして欲しいと思います。部活が一生懸命に取り組めるような生徒には絶対に出来ることだと思います。

（文責＝青少年育成センター指導員 藤村）

